
死神

藤川篤人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死神

【NZコード】

N8604A

【作者名】

藤川篤人

【あらすじ】

ある実態のない死神が人を次々と死に追いやる…。

I 章田『嘘』（前書き）

初投稿です。悪いこといろいろがあれば評価よりおじへお願いしますー。三（

— —) 三
注意（スプラッター系ではありません。）

一章目『扉』

僕はその日いつもモビリティに起床した。新聞をとるまではこつもモビリティに起きた。

僕は新聞をとる。新聞のテレビ欄を見る。面白そうな番組がこの日の晩にやっている。

「見なきやな。」

一人でつぶやく。

そして新聞を開ける。

自分には関係のない記事が並ぶはずだった。しかしそこにはKという親友の名前があった。

記事の内容は確かこんなはずだった。

『工事現場に青年が入り転落死。』

* * * * にある工事現場でKさん（18）

が転落死した。

作業員は全員出はからつていて誰もKさんに気付かなかつた。この事件は会社の管理体制が悪かつたことが原因であると懸念されている

僕は記事を読み終え事件現場の写真を見ておもわず新聞を落としてしまつた。

昨日のことだつた。

別に何もすることなく、適当にテレビを回している時携帯電話が鳴つた。

Kからだつた。

「もしもし、何の用？」

「扉が見えるんだ。」

「頭打つたか？」

「いや、まじめに聞いてくれ。扉が見えるんだ。」

僕は彼の冗談だと思った。

「いいかげんしてくれ。用事が無いなら切るぞ。」

「聞いてくれ。扉なんだ。白い壁に扉があるんだ。これは夢で見たことがある。確か夢では開けようとしたところで目が覚めたんだ。これは夢じやない。開けられるんだ！」

全く意味がわからない。

「切るぞ！」

「じゃあ来てくれ。場所は＊＊＊＊だから。」

「僕を騙して何が面白い！？」

ブツツ

ツーツーツー

全く持つて意味がわからない。行つたらどうせいないだろ？。何回かあつた手だ。

また携帯電話が鳴った。

「かけてくんな！」

「待つてくれ！切ら……」

ブツツ

ツーツー

僕は電源を切つた。

そして僕の顛履のお笑い芸人が出てきたのでリモコンを置いた……。

あの時の話は本当だつたんだ。写真によると工事現場には白いフェンスに従業員用の出入口がある。ああ、あの時止めていればその場に僕がいれば！

僕は何の意味もなく外に出た。

最寄りの駅に行く。その時だつた。白い壁と扉にを見つけた。

あそこには彼が居るんだ。僕を待つて居るんだ。助けてもう一つのを

……。

誰かが止める。僕は叫ぶ。

「放せ！あそこには彼が僕を待つて居るんだ！」

僕はその誰かを床に叩きつける。
そして勢いをつけて飛び込んだ…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8604a/>

死神

2010年10月11日02時14分発行